

災害統計グローバルセンター(GCDS)の定例会議を開催しました(2019/4/17-18)

テーマ：災害統計の整備、国際連携
場所： 富士通株式会社 会議室（東京都港区）

2019年4月17日（水）、18日（木）の2日間に渡り、富士通株式会社の本社において、災害統計グローバルセンター（GCDS）の定例会議（参加主体：東北大学災害科学国際研究所、国連開発計画（UNDP）、富士通株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社）が開催されました。当研究所からは、情報管理・社会連携部門の小野裕一教授、佐々木大輔助教、田中秀実研究員、高阪加奈代研究員が出席しました。

今回の会議では、今年度のセンターの活動内容等について参加者間で活発な議論が行われました。当該会議の結果、11月に開催予定の第2回世界防災フォーラムでのセッションに向けて、グローバルデータベース（GDB）の機能向上やデータ解析の実施といった各タスクの進め方やスケジュールについて、全ての参加主体が認識を共有することができました。

センターの中核となるGDBの機能は、これまで改良に改良を加えてきました。これらの成果についても、第2回世界防災フォーラムでのセッションにおいて発表する予定です。

災害統計グローバルセンター（GCDS）では、引き続きUNDPやJICA、富士通株式会社やパシフィックコンサルタンツ株式会社をはじめとする民間企業等との連携を密に取り、世界の災害統計の発展と防災力向上に向けて、学際的・分野横断的に研究・活動を進めていきます。



出席者による集合写真

文責：佐々木大輔（情報管理・社会連携部門）